

「仕事でも妊娠中もおしゃれを楽しんで」と、自社ブランド衣料のネット販売を近く始める森山加亜奈さん

事務スペースに格安入居 資金計画などアドバイス

札商の起業塾が好調

受け入れ21人全員事業化

札幌商工会議所が主催する起業塾「札商創業ビレッジ」が、好調に実績を挙げている。2004年の開塾以来、受け入れた21人全員が起業し、10月も2人が新事業を始める。札商内の事務スペースに入居できて、起業にかかる初期費用を抑えられる上、専門家の助言を受けられるのが特徴だ。

(川浪伸介)



「クラフトフィル」社長の伊部真二さん(34)は、社会人向けに自習室(37席)を有料で貸し出す事業を10月下旬に始める。8月に入塾し、これまで2カ月の準備期間を「事業計画の甘さをプロの視点から指摘してもらえた」と振り返る。

貸し自習室の事業は、札幌市中央区北2西2のオフィスビルを使い、資格取得を目指す人や外勤中にパソコンを使いたいビジネスマンの需要を掘り起こす。伊部さんは「起業には費用がかかる。札商の事務所を安く使えて助かります」と話す。自社ブランドで、おしゃれにデザインしたマタニティーウェアや作業着を販売する「立歩」社長の森山加亜奈さん(25)は、すでに起業していたものの4月に入塾。10月にネット販売の新事業を始めるため、大詰め準備に忙しい。森山さんは、

「子育てで退職するなどした女性の仕事復帰に役立ちたい」と意気込む。創業ビレッジは、市内で起業を目指す20歳〜40歳程度の人が対象。提出した事業計画を札商会員の審査委員会が審査し、受け入れの可否を決める。入塾は起業に向けた実践のスタートで、札商内に4カ所ある事務スペースに入り、税理士や弁護士などから資金計画や販路開拓、労務管理などの指導を受けて、早期の事業化を目指す。

事務スペースは原則1年間使え、入居費用も月1万円と格安。このような支援態勢が、塾が高い起業率を維持している背景。卒業生で、新業の治験で大学や医師の支援などをする「SOAヒリカ」(札幌)の朝倉純代社長は、「起業を目指す仲間と支え合えるのも心強い」と話す。

入塾は事務スペースに空きがあれば、随時受け付ける。問い合わせは同会議所中小企業相談所 ☎231・1768へ。